

ワン・ミス・コール

2008(平成20)年6月11日鑑賞〈角川映画試写室〉



監督＝エリック・ヴァレット／原作＝秋元康『着信アリ』（角川ホラー文庫刊）／出演＝シャニン・ソサモン／エド・バーンズ／アズーラ・スカイ／アナ・クラウディア・タランコン／レイ・ワイズ／デーブ・スペクター（角川映画配給／2008年アメリカ映画／88分）

……秋元康原作の『着信アリ』が遂にハリウッドで！ 日米比較のポイントは、女優の年齢とビジュアル面。さて、あなたのお好みは……？ また、ITの象徴たるケータイと、西欧中世流（？）の怨霊とのマッチングは……？ そして、ハリウッド版の恐怖度は……？ 原作のネタはまだまだ「使い回し」ができそう。すると、ハリウッド版「パート2」も射程距離……？

『着信アリ』が遂にハリウッドへ！

秋元康原作の『着信アリ』が大人気となったのは、ケータイへの着メロが死を呼ぶという仕掛けが現代人の共感と呼んだため。そこで、日本では『着信アリ』（04年）、『着信アリ2』（05年）そして『着信アリ Final』（06年）と続き、遂にはハリウッド版が登場！

「着メロが鳴ればあなたは死ぬ」というのが『着信アリ』の約束ゴトだが、『着信アリ Final』では「転送スレバ死ナナイ」という新工夫も（『シネマルーム11』369頁参照）。

しかし、ハリウッド版はあくまで第1作のフレームに沿うもの。

ハリウッド版の特徴は？

日本版は柴咲コウ（第1作）、ミムラ（第2作）、堀北真希、黒木メイサ（第3作）という若手美人女優の起用が特徴だった。しかし、ハリウッド版は「大人のホラー」を目指したためか、主役のベス・レイモンドを演ずるシャニン・ソサモンは1978年生まれだし、次々と犠牲になっていくベスの友人レアン（アズーラ・スカイ）もテイ

ラー（アナ・クラウディア・タランコン）も、それに近い年齢であるのが第1の特徴。

また第2の特徴は、いかにもフランス人監督らしく、恐怖をビジュアル面から強調していること。映画冒頭に紹介される聖ルーク病院の火事の中から救い出された1人の少女と、少女が大切に抱えているぬいぐるみが恐怖の源泉を象徴しているが、最新のIT技術を象徴するケータイと、恐ろしい姿をした怨霊を同居させたのが、ハリウッド版の第2の特徴。

アンドリュース刑事はいい奴だが……

映画冒頭に描かれるベスの友人シェリーの悲劇に続いて、親友のレアンやその元彼であるブライアンを次々と失ったベスは大ショック。しかし、事件のカギを握るのが、あの美しい着メロ音とそこに表示される少し先の日時にあることは明らか。そこで、ベスがそれをアピールして警察の捜査を求めたのはさすが心理学専攻の大学生。ところが、担当刑事はそれは単なる妄想だと決めつけてしまったから困ったものだ。

ただ1人アンドリュース刑事（エド・バーンズ）だけは自分の妹が同じような形で死亡していたため、ベスのアピールに興味を示し、以降連携して犯人探し（？）に臨むことに。このアンドリュース刑事はいい奴だが、彼の身は大丈夫……？

呪いはスタジオまで席卷！

呪いの着信は次々と広がっていった。ある日鳴ったベスの友人テイラーのケータイは、何と電池を抜いてもなおあの着メロ音が。その表示する日時は、金曜日の午後8時32分。2日後だ。

そこに目をつけたのが、TV番組『アメリカの奇跡』のプロデューサーであるテッド・サマーズ（レイ・ワイズ）。日本でもよくある「スタジオ生中継」をやれば、視聴率がとれる。そんな思惑により、スタジオ内の参加者や多くの視聴者が見守る中、テイラーとテイラーのケータイに対して悪魔祓いの儀式が行われたが、さて問題の午後8時32分には……？

ヒロインは大丈夫……？

シェリー、レアン、そしてテイラーと次々にベスの女友達のケータイに着信音を鳴らしたのは、一体誰……？ それで、冒頭の聖ルーク病院の火事から救い出された少

女と何らかの関係がありそうなことは再三暗示されるが、観客は容易にそれが理解できないはず。

そんな中ベスのケータイが鳴り、その画面には「着信アリ」の表示と3日後の時間が。さあ、呪いの着信音を鳴らしているのは誰……？ そのキーウーマンがああ少女であることを突き止めたベスは、たった1人今は閉鎖されている聖ルーク病院の中に入っていったが、そこでベスが見たものは……？ また、そこに駆けつけてきたアンドリュース刑事の応援は功を奏するのだろうか……？

ハリウッド版「パート2」は……？

私が見たネット情報では、岡本太陽氏の「米映画批評」の採点は30点と非常に評価が低い。その理由は各自で読んでもらいたいですが、私はもともとこの手のホラー映画はあまり好きでないうえ、ITの象徴であるケータイを恐ろしい姿の怨霊が操作するという構図はしっくりこない。さらに、主演女優の美人度がイマイチというきわめて主観的な基準により、私の採点は星2つ。

しかし、ケータイの着メロが死の恐怖を呼ぶというネタは面白いし、日本でも「転送スレバ死ナナイ」をネタにした第3部がつけられたのだから、元ネタの「使い回し」は十分可能。また、「船場吉兆」のようにその「使い回し」を非難されるいわれもない。すると映画のネタ探しに苦労しているハリウッドで、『着信アリ』のパート2が企画されてもおかしくないはず。もっともその場合はやはり、フランス人監督よりアメリカ人監督でやった方が、全体のトーンが一致するのでは……？

2008(平成20)年6月12日記